

子どもの安全意識を高め、
実践させるにはどのよう
に指導したらよいか

八街市立 八街東小学校
土生 康一

研究テーマについて

児童生徒が生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を育てる。

(「学校安全の手引き」より引用)

研究テーマについて

【生徒】

能力 → 安全に過ごそうとする意識

【教員】

育てる → 安全意識を高める指導

研究テーマについて

○周辺地域の様子

- ・畑が多く、道路の整備がなされていない箇所が多い。
- ・交通量が多いものの、ガードレールがないような通学路
- ・地域の方が「見守り隊」となって、登下校を見守ってくれている。
- ・天候に関わらず、車での送迎も多い。

研究テーマについて

○本校の課題

- ・道幅が狭く、車通りの多い場所が通学路となっている
- ・並列歩行や白線のはみ出し、斜め横断をしてしまう。
- ・車による送迎によって、登校班として機能できない地区あり。
- ・校内で怪我をし、救急搬送される事案が度々起きている。

研究仮説

児童生徒だけでなく、教員にも安全に関する知識を発信することで、交通安全や生活安全への意識が高まり、実践することができるだろう

研究の内容

○教員→児童への知識の発信

【交通安全】

①全校集会

- ・飛び出しの危険性を訴える動画(ドライブレコーダー)を見せた。
- ・自転車の乗り方の合言葉「じっとみます」
(じてんしゃは、とまる、みる、まつ)
- ・長期休業の合言葉「ひみこ」(火、水、交通事故に注意)

研究の内容

○教員→児童への知識の発信

【交通安全】

②地区児童会

- ・登下校の仕方や危険な箇所などについて、
教員だけでなく保護者や地域の方からの意見をいただき、自己を振り返る機会を設けた。

研究の内容

○教員→児童への知識の発信

【交通安全】

③系統的な指導

- ・2年生...見通しの悪い交差点体験(体育館)
- ・4年生...ソフトウェア「聞き書きマップ」にて通学路安全マップを作製
3年生へ紹介する活動
- ・6年生...交通安全協会の方と交通安全教室

研究の内容

○教員→児童への知識の発信

【生活安全】

①全校集会

・梅雨の時期の廊下の歩き方「ペンギンの歩き方」を図示

・不審者対応訓練後には名札着用の意義や、不審者が諦めること（諦める距離6m、諦めるダッシュ20m、諦めるバリケード）を伝えた。

研究の内容

○教員→教員への知識の発信

【生活安全】

①職員会議等

- ・児童生徒情報を全体で確認

→登下校時の指導を共有できるようにした。

- ・校内の危険個所を職員で共有。

研究の内容

○教員→教員への知識の発信

【災害・生活安全】

②避難訓練

- ・児童と同様の内容で事前に訓練と事後の研修を行うことで迅速に対応できるようにした。

- ・ワンポイント避難訓練を、日時の通達なしで実施。

- ・不審者対応訓練の反省を生かし、2回目の訓練は職員のみで実施。放課後の時間を活用し、何度も訓練を行った。

研究の内容

○生徒→生徒への知識の発信

【交通安全】

①校内放送

- ・交通安全週間の放送を放送委員会が実施。
- ・自転車の乗り方やヘルメットの着用法を放送

研究の内容

○生徒→生徒への知識の発信

【交通安全】

②全校集会

- ・委員会の発表時間を設け、自転車の点検方法を発表。

③地区児童会

- ・地区長の6年生が率先して登下校の仕方を反省。
- ・グーグルマップを用いて、危険個所の共有。

研究のまとめ

○成果

- ・他職員との共通理解を図りやすくなり、指導の差が少なくなった。
- ・知識の発信として「合言葉」を用いることで、簡潔に、かつ印象に残る伝え方ができた。
- ・安全の知識を共有することで、繰り返し指導することが容易になり、児童の安全に対する意識が高まった。

研究のまとめ

●課題

- ・児童の変容がわかりづらい。児童生徒への質問だけでなく、登下校の様子などから変容をつかむといいかもしれない。
- ・不審者対応訓練では特に、職員間で対応の仕方が統一できていないことを感じた。今後も共通理解を図り、とっさの対応ができるようにしていきたい。
- ・学校から離れると危険な道路横断をする児童は少なからずいる。安全への意識をひとりひとりが高められるように今後も知識の発信をしていきたい。

ご清聴

ありがとうございました